

最高水準の和算と技術の測量家

おさだじゅんじろう
長田 順二郎 (1821~1904)

長田順二郎は、1821年（文政4）徳用村に生まれました。順二郎は少年期より、二日市村の長右衛門から田地割算（年貢の公平性を保つため、百姓の田地を割替えて一定の期間交換する制度の計算法）を習い、1842年（天保13）には加賀藩から田地割算役に登用され、長池村の田地割の測量などに参加しました。1846年（弘化3）には金沢の和算家瀧川秀蔵などに師事し、和算術や測量術を学びました。その後、越中射水郡の著名な測量家石黒信由の一門に入り、実測と絵図調製の技を習得しました。

1850年（嘉永3）順二郎は石川郡の縄張役に登用され、以降、藩内の検地（田畑の面積と収量の調査）や測量に従事し、1863年（文久3）には畝田村・寺中村（金沢市）領内の砲台設計図の作成、1868年（慶応3）には加賀藩が企画した敦賀・琵琶湖間運河開設計画に参加するなどの活躍をしました。

廃藩置県後の順二郎は、石川県の測量役人となり、地租改正事業（作物の収穫高から地価を算出して、税金の基になる地券を発行）に伴う田地測量などに従事し、測量一筋に人生を歩みました。

1862年(文久2)、藩公認の測量技術者である縄張人のために、
順二郎が作成した測量術の手引書で、複雑な形状の土地を略測する
ときの縄張りラインの図や、和算の解法説明が書かれています。



(石川県立歴史博物館所蔵)

さんかく
算額 (布市神社)

順二郎は、地元徳用村で和算や測量術の塾を開きました。

布市神社の算額は、順二郎の門人であった徳丸藤蔵、蔵清右衛門、
絹谷清助、木戸太三右衛門、安原久太郎、徳丸安之助、大野喜三郎
の7人が1858年(安政5)に奉納したもので、この門人は、野々
市及び近在の住民と考えられます。

